

被災地支援

収益・CSRと両立へ

日本リユースシステム



被災者による被災地復興支援として、物資の提供などを行ってきた

飲料水容器に メッセージ 企業へ売り込み

廃棄物や中白品のリユース・リサイクルなどを手掛ける日本リユースシステムは、被災企業・被災者が中心となって設立したNGO「愛の絆」の東日本大震災救済・復興支援プロジェクトに参加、被災地の支援と収益やCSRなどを両立する取り組みを推進することで継続的な復興支援を行うことを目指す。第1弾として容器に企業名やメッセージを入れて被災地に送ることができると飲料水、東北応援水「復興への水」を来月から販売する。無償の寄付では継続は困難と判断、企業にとっても収益やCSRにつながる事業とすることが継続支援の鍵として積極的に提案していく考えだ。

同社の東北拠点や、ぐるというところで「愛の絆」を立ち上げ、震災発後にリサイクルショップや生直後から被災地に物資エーンを展開していた東などを運んでいた。しか都クリエイトは今回の東日本大震災で大きな被害を受けた。被災者自らが被災地・被災者を支援す

だけでは限界がある。長く継続していくにはビジネスと結び付けて、多くの企業に参加してもらう必要性を感じた」と話す。こうしたことから、支援物資につながる各メーカーとの提携を進め、消費を通じて募金ができる商品・物資を被災地に届けられる独自の商品を企画・販売することとした。その第1弾が「復興への水」だ。富山県の飲料製造メーカーと連携してペットボトル入り飲料水を製造。それを企業等に買ってもらう。被災地に届ける仕組みとなっている。容器には企業名や被災地へのメッセージを

入れることができ、企業のCSR活動として一般にアピールすることができると話す。

また、「企業名が入り宣伝効果もあるため、広告宣伝費として計上することで節税対策にもなる」と(山田氏)という。復興への水を皮切りに「愛の絆」参加企業に呼び掛けて、様々な展開を図っていききたい考えだ。